

外交史料館ニュース

一、外交記録公開

「外交記録公開に関する規則」(平成二四年外務省訓令第一九号)に基づき、平成二七年内に以下のとおり外交記録公開を実施した(対象ファイルの目録及び概要は外交史料館ホームページにてご覧いただけます)。

①一月二五日	特別審査対象ファイル	四一冊
②一月二五日	通常審査対象ファイル	九五〇冊
③三月三一日	通常審査対象ファイル	七七〇冊
④五月二九日	通常審査対象ファイル	三六〇冊
⑤七月三一日	通常審査対象ファイル	六〇〇冊
⑥九月三〇日	通常審査対象ファイル	七五〇冊
⑦十一月三〇日	通常審査対象ファイル	五〇〇冊
⑧十二月二四日	特別審査対象ファイル	三八冊

特別審査対象ファイルの公開では、継続的に公開している沖縄返還交渉、主要国首脳会議(サミット)、軍縮問題等に関するファイルのほか、一九七九年の大平総理訪中や一九八三年の中曽根総理訪米に関するファイルが初めて公開された。

二、所蔵記録のマイクロフィルム化、およびデジタル化の実施

平成二四年度より、「公文書等の管理に関する法律」第十五条第一項(国

立公文書館等の長は、特定歴史公文書等について、第二十五条の規定により廃棄されるに至る場合を除き、永久に保存しなければならない)の履行を目的として、利用のための所蔵記録の代替化(マイクロフィルム化およびデジタル化)を行っている。

平成二六年度は、明治大正期外務省記録6門(人事(官制及官職))のうち、前年度の続き(分類番号61.323～61.836)を対象としてマイクロフィルム化およびデジタル化を実施した。

三、展示

平成二七年五月二三日から一〇月六日まで、在日イラン・イスラム共和国大使館との共催で、特別展示「日本とベルシャ・イラン」を開催した。詳細は本号の特別展示解説記事を参照いただきたい。

また、平成二七年八月三一日から九月一二日まで、戦後七〇年特別企画として、普段は常設展示にレプリカを陳列している降伏文書の原本を約二〇年ぶりに展示するとともに、初めての展示となる連合国軍からの指令第一号の原本も並べて展示した。開催期間中の土曜日は、一日の来館者数が二〇〇名を超えるほどの盛況となった。

平成二七年一〇月一〇日から十一月二三日にかけて、茨城県立歴史館において、同館との共催展示「近代日本外交のあゆみ」を開催し、会期中に二万人を超える利用者があるなど、好評を博した。

平成二七年は、日本とブラジルの外交関係樹立から一二〇年を迎える。これを記念して、平成二七年一〇月二三日から平成二八年三月三一日まで、特別展示「日本とブラジルの一二〇年」を開催中である。